

〔第4回学術大会シンポジウム「ジェネリック企業の将来展望」要旨〕

ジェネリック (GE) 企業の将来展望と田辺製薬販売の取り組み

Future View of Generic Drug Companies and Tanabe Seiyaku Hanbai's Strategy

岡田 文俊 FUMITOSHI OKADA

田辺製薬販売株式会社

1. はじめに

田辺製薬販売は信頼・リライアブルを会社の基本方針として掲げた創業3年目の若い会社です。会社設立以来、リライアブル・ジェネリックとして「安価で安心できる医薬品」を提供し続けてまいりました。これからも、ジェネリック医薬品（以下GE）の普及とともに人々の健康に貢献していきたいと願っております。今後とも、皆様からのより一層のご指導、ご鞭撻並びに温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2. 我が国の医療の環境

医療崩壊が叫ばれる中で政権交代が起こり、平成22年4月に10年ぶりに医療費のプラス改定が行われました。一方、我が国の経済はリーマンショックで世界が揺らぐ以前から先進国最悪の財政状況であったため、社会保障に関わる負担が大となっています。超少子高齢化社会、人口減少、毎年1兆円もの医療費の増加、救急や産婦人科、小児科医療を中心とした医療崩壊等で、その根幹が揺らいでいます。世界に冠たる国民皆保険と世界有数の長寿社会を効率的に生み出してきた医療制度に綻びが生じ、その対策として、国家財政が厳しい中、10年振りに医

療費のプラス改定が行われました。

医療崩壊に対応する一方、国は懸命にその綻びへの対策を打ち出しています。例えば、包括化医療の推進による、先進国では異例に長い入院日数の短縮化や、介護施設の整備等による入院医療費（日数）の節減策では、具体的な成果が現れ始めております。各種診療ガイドラインの整備も医療の標準化と効率化に有効のようです。ついで、GEの普及を通じての薬剤費抑制策も強力に行われています。

3. GEの現況と今後の予想

本来、医薬分業の推進がGEの普及の促進につながると考えられていましたが、期待されたほど効果があがりませんでした。そこで、平成14年の診療報酬の改定でGE1調剤に対して2点の加算という直接的な推奨施策が採られました。この結果、GEの数量ベースが年間で30%前後伸びたのは記憶に新しい所です（Fig.1）。

その後も緩やかに伸びましたが、その普及は欧米先進国の中で最低水準に留まっていることも周知の事実です。

米国における状況と対比しますと、Fig.2で示すように、同国で急速に普及が進んだと云われる、ハッチ・ワックスマン法の施行前、すなわち、1985年頃の状況が、昨年までの我が国の状況と類似しています。米国が、それから約3～5年でGEの数量ベース30%の大台を突破したことを考えますと、Fig.3

* 〒541-8505 大阪市中央区北浜 2-6-18
TEL: 06-6205-5730 FAX: 06-6205-5740
E-mail: okada.fumitoshi@mf.tanabe.co.jp